

今日のトピック

**2016年のASEAN5カ国経済の見通し
経済成長は緩やかに加速**

**ポイント1 2015年後半はやや減速
政策対応が遅れる**

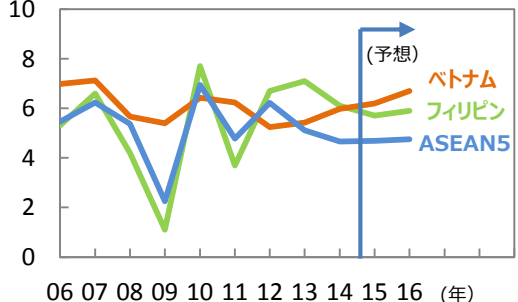
■2015年は政策発動で、年後半にかけて成長が加速すると思われました。しかし、インドネシアやタイのインフラ投資に絡む予算執行は、政治の混迷などもあって大幅に遅れ、景気をけん引できませんでした。夏場には、中国の人民元切り下げや米国の利上げを警戒した資金の流出からアジア通貨が下落し、景気悪化へとつながりました。

**ポイント2 2016年は緩やかに加速
物価は落ち着いた動き**

■2016年の実質GDP成長率は4.8%程度と伸びが加速する見込みです。前提となる中国経済は緩やかに減速し、落ち着いた推移となる見通しです。フィリピンの2016年予算で公共事業費が大幅に増加したほか、財政政策の余地が限られるマレーシアやタイ、インドネシアは国営企業を利用した公共投資を活発化することで内需を刺激しようとしています。

■一方、2016年の物価は原油価格の低下による物価押し下げ効果が薄れることが想定されますが、総じて低位で安定した推移となりそうです。

(%) 【実質GDP成長率（前年比）】



06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 (年)
(注) データは2006年～2016年。2015年、2016年はベトナムが政府見通し、フィリピン及びASEAN5が三井住友アセットマネジメント予想。
(出所) CEIC、ベトナム政府、国際通貨基金（IMF）のデータに基づき三井住友アセットマネジメント作成

【ASEAN5の経済見通し】

(単位：%)

	実質GDP		消費者物価指数	
	15年	16年	15年	16年
ASEAN5	4.7	4.8	-	-
インドネシア	4.7	4.8	6.4	4.4
マレーシア	5.0	4.5	2.1	2.8
フィリピン	5.7	5.9	1.4	1.8
タイ	2.8	2.9	▲0.9	0.4
ベトナム	6.2	6.7	3.1	3.4

(注) 実質GDP、消費者物価指数は前年比。ベトナムの実質GDPは政府見通し、同消費者物価指数はIMFの見通し。他の国々は三井住友アセットマネジメント予想。

(出所) CEIC、ベトナム政府、IMFのデータに基づき三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 フィリピン、ベトナムの高成長がけん引

■2016年は、ASEAN5の中でも、フィリピンやベトナムの高成長が注目されます。フィリピンは低インフレが消費拡大を後押しし、内需主導の景気回復が続く見込みです。5月の大統領選挙に向けて民間消費が活発化する見通しです。

■ベトナムは輸出依存度が高いですが、中国経済が

減速する中でも対中輸出は堅調を維持しています。ベトナムを対中輸出の拠点とするアジア企業が増加しているためです。また、環太平洋パートナーシップ協定（TPP）が発効すれば、より恩恵を受けることとなります。ベトナム政府によれば、2016年の実質GDP成長率は6.7%が目標となっており、両国がASEAN経済をけん引する見通しです。

**ここもチェック! 2015年12月25日 アジア諸国の対外債務と米国の利上げ
2015年12月24日 2015年を振り返るキーワード「新興国通貨」の下落（グローバル）**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。